



台湾のカーエレクトロニクス産業

コンピューター、通信及び消費性エレクトロニクスと言う3C産業に続いて、第4のC CAR 電子産業が、産官学の推進の下、台湾では急速に立ち上がりつつあり、台湾の情報電子産業のもっとも輝かしい成績を収められる機械のある次世代の舞台と見られている。この第4C産業では、台湾の自動車産業と、伝統産業と、情報電子産業の融合が進められている。

世界のカーエレクトロニクス産業の規模

専門家の予測によると将来5年以内に、一台の自動車に搭載された電子デバイスは自動車全体のコストの25%以上に達すると見られている。2010年に、自動車一台ごとに搭載されたカーエレクトロニクスの金額は自動車全体の40%の価格を占め、2003年の26%を比べ大幅に成長する見込みである。Strategy Analyticsの予測によれば、2008年の世界のカーエレクトロニクス産業の市場規模は1,635億元に達する見込みであり、2003年の約1,113億元と比べ、7.5%の大幅な成長である。2004年の世界のカーエレクトロニクス市場は既に1,224.61億米ドルに達し、ノートブックPCの二倍、半導体産業全体の約8割に達している。

表1：世界のカーエレクトロニクス市場規模予測

	2004	2005	2006	2007	2008
自動車生産量 (台)	6,021	6,171	6,376	6,621	6,779
1台当電子部品 コスト(USD)	1,518	1,652	1,750	1,820	1,882
カーエレクトロニクス 市場(USD)	1,225	1,341	1,446	1,550	1,635

資料出所：Strategy Analytics, IEK-IT IS

台湾の車輻部品産業発展現況

2004年台湾のカーエレクトロニクス部品の総生産額はNT2,338億に達し、既に完成車の総生産額(約NT2,100億)を超えた。その内、部品の輸出額は、NT1,273.9億に達し、2003年比18%の成長をしている。地域別に見ると、北米が最大の輸出先で、内、アメリカが最大である。2004年の輸出金額はNT453.3億で、輸出総額の35.6%を占め、2003年から18%の成長を見せた。第二番目はアジアで、成長速度がもっとも速い地域である。最近は多くのメーカーが欧州の部品市場も積極的に攻めており、主要な輸出対象国は英国、ドイツ及びイタリアなどであり、第三の市場地域となっており、市場規模はNT120億である。

台湾カーエレクトロニクス産業発展現況

台湾にはカーエレクトロニクス産業に参入するメーカーは少なくない。車王電子、怡利電子、聯積、憶聲、天下航太、飛鷹航太等、多くはGPS製品を展開し、ほとんどがOEM生産を主として、各国に輸出する。EMS大手の鴻海もまたカーエレクトロニクスの領域に参入し、高品質のコネクタの開発を行う計画がある。コントロール部品の領域において、台湾の多くのコンピューターメーカーもカー



台湾のカーエレクトロニクス産業

エレクトロニクス産業に参入している。これには、威達電、研華等が含まれる。これらの製品の大半は自動車のインテグラルコントロールシステムになるものである。一枚の小さなボードが、複数のアプリケーションを統括し、いくつもの自動車のシステムをコントロールする。威達電の郭博達董事長はカーエレクトロニクスのコントロールシステムは、組み込みソフトウェア及び産業用コンピューターに最も適したものであり、将来、産業用コンピュータの応用によるカーエレクトロニクスシステムが益々増えると考えている。

この成長が予想されるチャンスをつかむために、台湾の情報電子産業のメーカーも積極的にカーエレクトロニクス産業での布陣を開始した。鴻海、廣達、華碩、光寶、環電、廣明、明基、聯電などの大手もこの中に含まれる。マイクロソフトは2005年4月に華碩、廣達、緯創等などの大手メーカーと協力の機会について協議をしており、カーコンピューター市場攻略の姿勢を示している。ノートブックPCのOEMトップ廣達電腦はカーエレクトロニクス事業部を設立し、当該グループは廣明光電はDVDプレイヤーの製造能力を擁し、パネル技術もあるために、車載液晶パネル及びエンターテインメントのプラットフォームなどの自動車向けソリューションを行う。この他、華碩もカーエレクトロニクスを相当に重視しており、緯創は重点をカーエレクトロニクスの実装方面に向けている。

台湾IA整車計画

2005年3月、裕隆グループの呼びかけにより鴻海、廣達、華碩、仁寶電腦等が裕隆と新しい会社を設立し共同で「IA整車計画」を推進し、新車と、カーエレクトロニクス部品の開発を行う。当該プロジェクトは、台湾が世界のカーエレクトロニクス領域に攻め込む重要な土台となる。經濟部は2008年には、台湾のカーエレクトロニクス部品はNT6,000億の生産額を作り出す事が出来ると見込んでいる。

行政院開發基金監理委員會、IA整車計画を通じてNT15億を投資し、開發基金の最近5年間で最大の民間投資案件である。經濟部も科專予算によりIA計画の新技术開発を支援する。

經濟部工業局は自動車は經濟の基幹産業であり、関連性が強く、IA整車計画が成功すれば、電子、化学、機械産業技術に対して、毎年数千億元の貢献がある。經濟部は企業と共同でIA整車計画を推進する決心であり、完成車の開発を借りて、世界市場を開拓する能力の有る情報電子産業大手と自動車メーカーの力を統合し、台湾のカーエレクトロニクスメーカーを国際舞台に押し上げたいと考えている。今年4月には台湾松下電器の總經理が、IA整車設計開發計画への参加に高い関心を示している。これは日系のカーエレクトロニクス関連企業としては初めて当該計画に参加の意欲を示したケースである。今後も国外技術の参加により台湾のカーエレクトロニクス産業の更なる発展を導く事が出来ると考えている。